

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2024年2月27日

1. Nature:市中サーベイランスの結果、急性期を過ぎても新型コロナウイルスが
残存している人々がいることが分かった
2. 下水サーベイランス：札幌 最新 2月19日～25日

【松崎雑感】

1. 新型コロナウイルスに感染した1000人中、995人は、完全にウイルスがクリアされるが、5人の人々では感染から2か月以上経ってもウイルスが体内に生きているようだという研究結果です。これがウイルス変異をもたらして、次のアウトブレイクをもたらすおそれがあるという考案です。

2. インフルBによる学級閉鎖激増中の札幌の下水サーベイランスでは、新型コロナどんどん増加、A型インフルは激減ということなので、B型インフルと新型コロナの同時流行と言えます。

市中サーベイランスの結果、急性期を過ぎても新型コロナウイルスが残存している人々がいることが分かった

Ghafari M, Hall M, Golubchik T, et al. **Prevalence of persistent SARS-CoV-2 in a large community surveillance study.** *Nature*. Published online February 21, 2024. doi:10.1038/s41586-024-07029-4

新型コロナウイルスが、急性期以後もヒトの体内に存在し続けることがある。これにより、

- ①将来のアウトブレイクをもたらすウイルスリザーバーとなる
- ②ウイルス変異を促進する
- ③ロングコロナリスクを高める

などの望ましくない結果をもたらす。

しかし、急性期以後もウイルスが体内に存在し続ける人々の割合、ウイルス量の変動、ウイルス変異の内容は、ほとんど不明である。

本研究は、全国的な感染調査の一環として収集されたウイルスゲノムデータを用いて、**新型コロナウイルスの RNA量が急性感染後30日以上検出される381人を特定した。**

そのうち54人ではウイルスRNAが60日以上検出された。

本研究では、これらの人々を「持続感染者」と定義した。

ただし、ウイルスRNAが検出されたと言っても、複製能力を持たないRNAを検出している可能性は否定できない。

持続感染者は、非持続性感染者よりもロングコロナ症状を自己申告する確率が50%以上高かった。

これまでの疫学データから、新型コロナ感染者の0.1～0.5%は、感染から60日以上、高レベルのウイルス保有状態となっていることが分かっている。

これらの新型コロナウイルスでは、アミノ酸配列の変化が著明な場合とそうでない場合があることが確認されている。

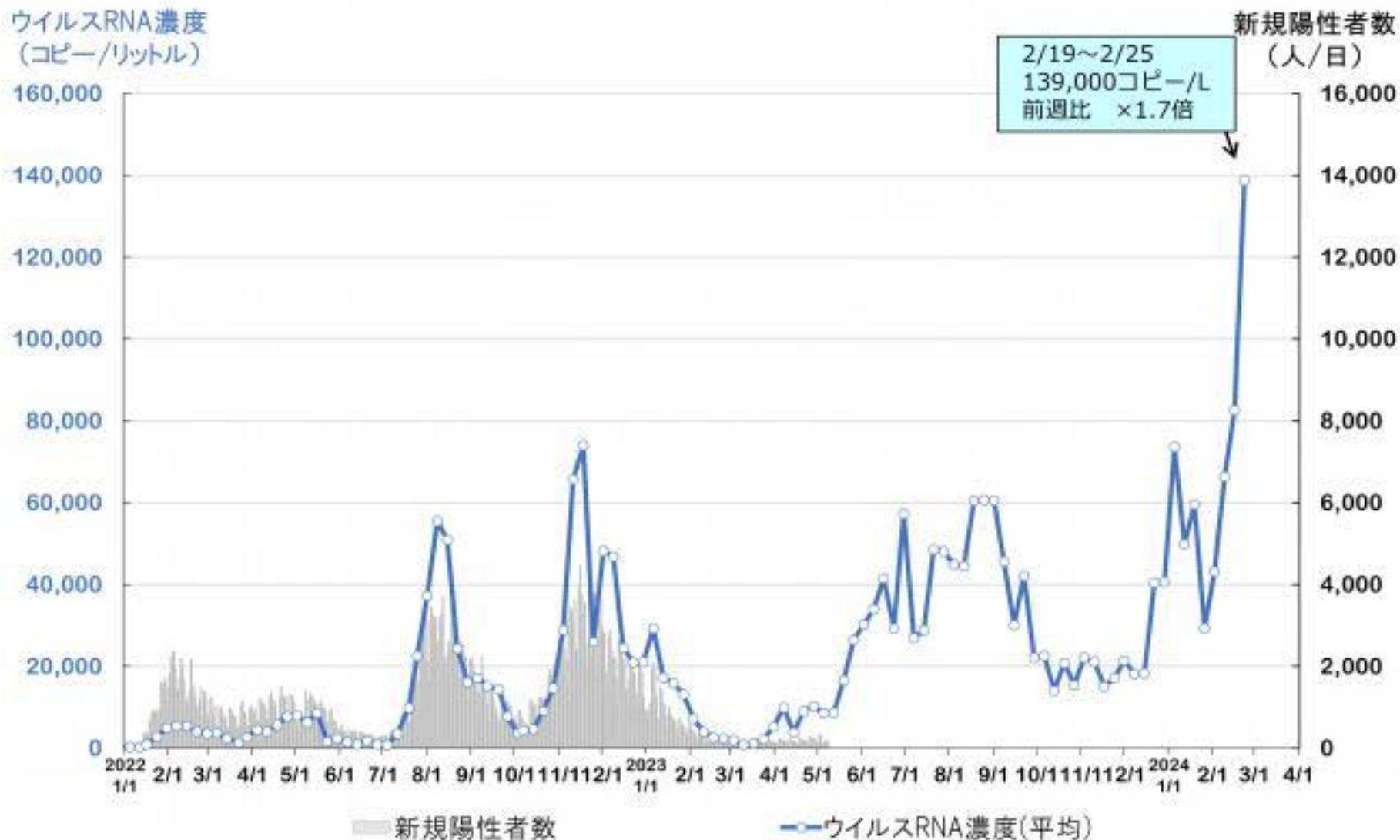
前者は、免疫低下者によく見られ、免疫すり抜け機能の増加と関連する。

後者は免疫すり抜け機能低下と関連する。

この研究は、新型コロナウイルスの感染、疫学、変異の解明に重要な貢献をもたらすと考える。

新型コロナウイルス濃度は4週連続で増加しており、引き続き警戒が必要です。

下水サーベイランスの結果（新型コロナウイルス）



下水中のインフルエンザAウイルス濃度は減少傾向です。

※本調査では、インフルエンザA型を分析対象としています。

下水サーベイランスの結果（インフルエンザウイルス）

